

平成28年度 帰国者報告会・歓迎会

平成28年6月11日（土）に帰国者報告会・歓迎会がピュアリティまきびで行われました。今回は帰国者3名のうち2名の先生方が参加してくださいました。

< 帰国報告会 >

○開会挨拶（服部誠会長）

先生方の報告は、きっと3年間の思い出がいっぱい詰まった宝石箱のようなもの。短い時間ですが、今日はその宝石を引き出していただき、お二人の先生方のお話を聞いて、研修、勉強をしましょう。そして、実践をしっかりと味わいましょう。



○帰国者報告



早川 政宏先生（ニュージャージー日本人学校：教諭）

校舎は緑豊かで安全な場所にあり、教会の一部分を借りて使用していました。1～9年生までが学習をしています。

生徒数は残念ながら減少傾向です。英語圏のためか普段は現地校に通い、土曜日に補習授業校に通う家庭が多いです。その為、いかに魅力ある授業作りをするかが大切だと考え、実践してきました。

冬場は寒さが厳しく休校になることがあるので、授業時間を確保するために1年生でも週1回7時間目の授業がありました。総授業時数としては日本より多く、子ども達はそれでも頑張って勉強していました。

校務分掌で進路指導をもちましたが、生徒達がいろいろな学校を受験するため、一校一校電話で連絡を取りましたが、時差が13時間あるために深夜の作業になり、大変でした。しかし、素晴らしい進学実績が日本人社会の中で話題になり、編入学を増やすことができました。

校外学習では、地下鉄利用やプリンストン大学での講義を聴く、サイクリングやトレッキングをするなど、毎年違った体験をさせたいと考え、現地に足を運んで計画を立てていました。

3年間の派遣を終え、ポジティブシンキングになりました。また、同僚の大切さ、家族への感謝が深くなりました。

田甫 健一先生（ニューデリー日本人学校：教諭）



児童生徒は280人くらいでした。3学期制で、5月から6月に世界一早いといわれる夏休みがあります。授業は、小1～3年生は25時間＋英会話1時間、小4～6年生は25時間＋英会話2時間と中学生は25時間＋英会話2時間＋外国語活動2時間をしており、火曜と木曜は7時間でした。

大変出入りが多く、年間で90名くらい入り70名くらいが出て行くという感じだったので、歓迎会とお別れ会が学校行事でありました。

年間の転出入がたいへん多く、90名くらい入り70名くらいが出て行くという感じだったので、歓迎会とお別れ会が学校行事としてありました。

夏は暑く、長いです。外は大気汚染や温度が高いということもあり、体力の向上を目指して室内プールでの水泳授業に力を入れていました。

生活面では、ホーリーやドゥシャラといった祭りにも参加して現地の文化にふれたり、ターバンやサリー、パンジャビスーツなど、民族衣装についても知ることができました。

この3年間で内容の濃いよい体験をさせていただきました。夢の舞台にたてました。インドに行ってよかったです。自分が大きくなって帰ってこれ、この経験を岡山の子ども達、先生方にこれからしっかり伝えていきたいです。

○指導・講評（岡山県教育庁教職員課課長 平賀和治様）

最近グローバル化と言われており、県でも進めているところです。今回学習指導要領の改訂では、外国語、英語の教科化が進んでいます。現在の状況としては、なかなか国際理解教育という言葉が昔ほど聞かれなくなっております。少し残念に思います。しかし、グローバル人材を育成するためには、英語が手段ではありますが、それだけあってもグローバルな人間にはなれません。外国、外国の人、文化などを理解してわかり合えると言うことを根本にもたないといけないと思います。この研究会の皆さまには30年近くにわたって国際理解教育を推進していただいていることは本当に感謝しています。今後も引き続き、地道にしっかりと進めていただきたい。

先ほど報告をいただきましたが、ご無事に健康で帰っていただいてよかったです。2人とも積極的に意欲的に学習活動に取り組み、保護者の方々から信頼関係を築いて頑張ってくれました。今後その頑張りを発揮してくれるものと思っています。



○閉会挨拶（奥山仁副会長）

2つの学校について短い時間で貴重な報告をしていただきました。海外で生活すると、いろいろな刺激があり、他国理解は進みます。一方で、必ず日本という国を意識しなかったわけではないと思います。また、日本に対する愛情をもつ思いをもっていることと思います。皆さんには貴重な経験を、特に帰られた先生には、ほかほかの思いを子ども達、周りの人達に伝えて欲しいと思います。



< 歓迎会 >

○開会挨拶（服部誠会長）

この会は同じ志をもって海外で活躍してきた先生の集まりで、使命感をもって海外で活躍し、岡山県のために頑張っているという気持ちでつながっているもの同士です。

派遣教員は複数の物差しを持っています。日本人としての物差し、海外からその国を見た物差し、そして海外から日本を見た物差しを持っています。その物差しを使いながら、学校教育に役立つように



みんな頑張っています。どうか、みなさんの力で子ども達のためにも、国際理解教育を進めていきましょう。

○歓迎の言葉・乾杯（鳥居恭治元会長）

お二人の先生、お帰りなさい。3年間あっという間だったと思います。日本に帰ってまだバタバタされており、これからやっと日本に帰ってきたことを実感される頃だと思います。皆さんの活躍はホームページで拝見しており、とても期待しておりました。この会でもぜひご活躍いただけたらと思っています。



○帰国者挨拶

早川 政宏先生



日本人学校に行く前に壮行会で励ましを頂き、アドバイスをいただいて、派遣先で頑張る原動力の一つになりました。

今日は、先輩方と話をしながら、派遣先での面白い話を聞くことができました。私もこの会のために力になっていきたいと思います。アメリカでの生活は、言葉の壁が厚いことを実感しました。英語はある程度勉強していたので、他の国よりは少しは不自由さはなかったかもしれませんが、アメリカで意外と英語を第一言語にしていない人の多さにビックリしました。スパニッシュが多かったのですが、身振り手振りで思いを伝えようとする所は見習いたいと思いました。また、アメリカは子ども、お年寄り、体の不自由な方にはとても優しい国でした。地下鉄に乗っていたら、子どもが小さかったので、必ず席を譲ろうと声をかけてくれました。この点は日本も見習うべき所だと思います。日本の良さを改めて痛感した3年間でしたが、これから岡山県の子供達に還元していきたいと思っています。

田甫 健一先生



海外日本人学校で働くことが私の夢で、行く前からこの会に参加させていただき、いろいろなアドバイスをいただきました。それがあからこそ、夢を叶えることができたのだと思います。

私も早川先生と同じく、子ども達だけでなく、この研究会の一員として精一杯盛り上げていきたいと思っています。

インドではいろいろなことがありました。日本に帰ってきて、まだいろいろなことに感動しっぱなしです。空気がきれい、緑がきれい、刺身がうまいなど、そう実感できる状態が続いています。実際にいってみて、知らない世界があることを知り、かなりの刺激をいただきました。これをいかしてこれから頑張っていきたいと思っています。

田甫 健一先生の奥様

3年間振り返ると、長かったような、短かったような感じです。日本との違いは、ドライバーさんやお手伝いさんがいることで、人を使うことの難しさに戸惑いました。しかし、インドでの生活の支えになり、上手く生活をする事ができたのは、

助けてもらったおかげだと思っています。

生活では、買い物に苦勞しました。スーパーに行けば品物はあるけど、高価だったり、古いものがあつたりするので、頑張って市場に買い物に行っていました。

1年目には、天皇陛下がいらっしゃった際に、お茶出しをさせていただきました。緊張のせいか、あつという間の出来事でした。

インドでの経験や出会いは、一生の宝物になりました。

○閉会挨拶（菅野和良副会長）

在外教育施設を経験してきた我々は、たくさんの財産を持って帰っています。そのうちの大きなものとして、人脈があります。同僚だけでなく、外国の方、現地の日本人の方など、岡山で生活していたら、一生出会うことのないような素晴らしい方々と出会ってきました。その方々に共通しているのは、その国も愛しているし、日本ももちろん、そして自分のふるさとをものすごく大切にしているということを感じました。日本人としてのアイデンティティを確かにもっていると感じたことがあります。

私は卒業生への言葉やいろいろなところで「温かい国際人に」と言ってきました。温かい国際人とは、単に海外で活躍することではなく、その国を愛し、自分の国も愛して、命を大切にし、文化の違いを受け入れることのできる人と考えています。

私たちは貴重な経験をさせていただいて、恩返しをしていくことを考えると、自分自身も国際人にならないといけないし、そして、接した子ども達が少しでも分かってくれたらと思っています。

先ほど、2人の先生方から、この会のために尽力したいという言葉が聞けてとても嬉しかったです。期待しております。



<帰国者歓迎会の様子>

